

八戸市議会議長賞

母の日のプレゼント

城下小学校 二年 橘 優風

「母の日のプレゼント買いに行こうか。」
ねねが言いました。ねながらテレビを見ていたわたしは、とびおきて、

「行く。ぜったい行く。」

とさげびました。おかあさんとばあちゃんの顔が頭にうかびます。わたしとねねは目を合わせて、にやっとわらいました。

わたしたちは、おとうさんと花やに行きました。花やさんには、ピンク、黄、オレンジ、白のほかにも、ことばではうまく言えない色の花がたくさんあります。テレビはずっと見ているとあきるけど、花はずっと見ているとあきません。わたしは、

「どれにすればいいかな。」

と、おとうさんに聞きました。

「おこづかいで買える花にしなさい。」
と、おとうさんは言いました。千円の花よりも二千円の花、二千円の花よりも三千円の花の方がきれいです。でも、おこづかいはそんなにありません。わたしとねねは、花とねふだとずっとならめっこをしていました。おとうさんは、
「きめられないなら、たべものにしたら。」

と言って、いなくなりました。きめられないので、わたしはなきたくなりました。でも、ぜったいに花をプレゼントしたいと思いました。

わたしとねねは、八百円の花を二つ買いました。外に出ると、風で花がおれそうになりました。わたしは、花をやさしくだっこしながらおとうさんのところに行きました。

帰っているとき、もつと高い花にすればよかったですと思いました。また、なきたくなりました。

家について、まず、ばあちゃんに花をプレゼントしました。ばあちゃんは、

「ばあちゃんに。ありがとう。まだまだ、長生きしなきゃねえ。」

と、すぐにかぎってくれました。わたしは、ほっとしました。

そのあと、おかあさんに花をプレゼントしました。わたしは、おかあさんの目をじっと見ました。どきどきしました。おかあさんは、にこりわらって、

「ありがとう。」

と言って、わたしをだきしめてくれました。わたしの心は、花がさいたのを見たときのように明るくやさしい気持ちになりました。

花は、「ありがとう」の気持ちをつたえられるすてきなものです。花は、もらった人もあげた人もうれしい気持ちにするすてきなものです。わたしは、ゆめが一つふえました。わたしは

しょうらい、きれいな花にかこまれて、みんなをしあわせにする花やさんになりたいです。